



道に迷っていた外国人観光客は
日本オス猿チ○ポ 目当ての
ドスケベメスガキでした

「ヨッシャー！今日は有給でアキバジャンクショップ巡りだぜ！
。。。ん？」



なんか困ってそうな外国人っぽい女の子がいるぞ。
今日平日だから人少ないし、
見た目が派手だからか誰にも声掛けてもらえてないな。。。
うーん。仕方がない。

「君、道に迷ってるの?」

「あっ! やっと声を掛けてくれる人がいたわ」

「うおっ。日本語上手だね」



「うん！」

日本のアニメが大好きで見まくってたら日本語ペラペラになったわ！
でもパパとママはオタク文化に興味ないから
アタシ一人でアキバ観光に来たの。
それでねとドオキに行きたいんだけど、道迷っちゃって」

「ここから徒歩7分くらいだけど……。
君一人で観光は危なくない？」

「日本は治安いいからだいじょうぶよ！」

「いやいや……さすがに危ないって」



「アタナ親切ねとならアタシに付き合ってよ。
ドォキ連れてって」



「ええ・・・まあ暇だしいいよ。
君名前は？」

「アンナよ」

「アンナ、ついてきて」

「ここがド○キね！」

「アダルトコ○ナとはどこ？」

「は！？なんだって！？」

「アダルトコ○ナと！」

「日本のド○キ！アダルトコ○ナと！」

「いやいや君はダメでは！？」

「日本の女と一緒にしないで！」

「日本人から見たらアタシは十八歳以上よ！ほら早く！」

「ええ……」



「ワァとオ。すごいわ」

「……(気まずい……)」

「これなんてパツケとジの女の子がとっても可愛いわ」

「(美少女外国人がオナホ持つてる……)」

「これ男性が使うおもちゃよね。」

「これ買って。あなたが使ってるよとこを見せてよ」

「はあ……何言ってるの……」



「ダメな6」

「ダメに決まってるだろ!!」

「。。。じゃあアナタに無理矢理

ココに連れ込まれたって騒ぐわよ、アタシ」

「コゝゝゝコイツゝゝゝ」

俺はアキバから徒歩圏内に住んでいるため、
アンナを家に呼ぶことになった。



「日本人の男にしては
おっきいわね♡」

「ちよっししくなッッ♡」

ククク

ドキドキ

クク♡

ドキドキ

ククク

グッ

グッ♡

何なんだよこの展開ッ。。。♡



「ふうと♡」

アンナが亀頭から根本まで優しく息を吹きかける

「ッあ……♡やめッ……♡」



ローションたっぷり

にゆるにゆるオナホをアンナが小さい手で

ぎゅっっっ♥と握りしめる

「はっっっ♥あっっっ♥♥」

ゴッ

「挿入しただけで

とっても気持ちよさそっお♥」

んんん

ゴッ

ゴッ

んんん

ゴッ



「いっぱいピストンしてあげてね♡」

ぎゅっ♡と小さい手で握られながら

めちゅめちゅオナホを

めにゅん♡めにゅん♡と

上下にピストンさせるアンナ

「うああッ♡
すげッッッ♡」



「やんっ♡押し倒されちゃった♡

・・・日本人のオトコにしてはたくましいわね♡」

ドキ
ドキ

「バカにすんなッ・・・♡
散々煽ってきやがってッ・・・!!」

ムキ
ムキ

ムキ
ムキ

ムキ
ムキ





「おげんまん♡」

「ピンパロ♡♡♡」
「ミミ♡♡♡」

「ムム」

「ムム♡」

「おっぱい♡」

「ムム♡」

「ムム♡」

「ムム♡」

白くてもちもちなデカ乳谷間を
オナホローションまみれの
ギンギンチンポでガン突きする

「はあッ♥あッ♥」

「ふッ♥
モンキー♥な♥」



「るッッセッッ♡♡

日本オス猿の濃厚ザーメン
ぶちまけてやるッッッ♡

ぬぶっっ♡ズプッ♡

ぬちゅっ♡

ブッ

「ん♡♡

びっ♡

んっ♡
んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

「射精るツツツツ♡♡」

ドピュルルルツツツ♡

「ピュ♡」

「ん♡
ん♡」

「♡ツツ」

「ん♡
ん♡」

「ん♡
ん♡」

「ん♡
ん♡」

「ん♡
ん♡」

「ん♡
ん♡」



「はッッ♡あッッ♡♡♡♡♡♡」

「くっさッ♡」

オス猿さんのおチンポは
営業終了デスか?♡

ドキ
ドキ

「♡♡♡♡」

ゴキ
ゴキ

ゴキ
ゴキ

ゴキ
ゴキ

ゴキ
ゴキ

ゴキ
ゴキ

ゴキ
ゴキ

ゴキ
ゴキ

ゴキ
ゴキ



パンプキンパンプキンパンプキン

「あッ♥奥ッッ♥きもちいッッ♥」

セク

ズレ

ズレ

セク

「あッッ♥」

早熟洋ロリマハロなすギツツツ

パンプキン

パ

パ

パ

パ

パ

パ

アンナの子宮の奥をとんとんとん♡♡と
しつこく突くとマン壁が

おぞまじりりりり♡♡と締まる

「お♡♡お♡♡お♡♡」

「チンポに集中してきたな♡♡」



「アンナツツ♥アクメしろツツツ♥」

パチタン♡♡♡パチタン♡♡♡パチタン♡♡♡パチタン♡♡♡

「はッ♡おッ♡おッ♡おッ♡おッ♡おッ♡」



「はッ♥あッ♥

アナタのおチンポ結構すごいわ・・・♥
アタシのセフレに並ぶくらいかも♥

「あ？なんだよそれ

気に食わねえ言い方だな」

「モお？」

日本人男からしたら外人チンポ並みって
すごい褒め言葉だと思っけど？♥

「・・・」



「おっ♡
最近ずらっつと家族旅行だったから
久しぶりのおチンポなんだものツツツ♡」

「最初から日本人のチンポが目当てだったんだな♡」

「んっ♡ぞおよっ♡」





「まんまん♡♡♡」

ぽんぽんぽんぽんぽんぽんぽん♡♡♡♡♡

「洋ロリビッチが♡♡♡♡♡」

ぷんぷん♡♡♡

♡♡♡♡♡

ぽんぽん♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

「キッツキツマン」に
やつと俺のオス猿チンポが馴染んできたな♥」

「おっしん♥んおっしん♥」

アンナのアクメ寸前マンコが
チンポを締め付ける

「あーっっ♥イクっっ♥」

バチタン♥バチタン♥バチタン♥バチタン♥バチタン♥



クッキン♥

クッキン♥

おん

おん

クッキン♥

クッキン♥

おん

おん

おん

おん

おん

おん



「ぽろぽろ♡♡♡♡」

ぽろぽろ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

ぽろぽろ...

ぽろ...

ぽろ...

ぽろ...

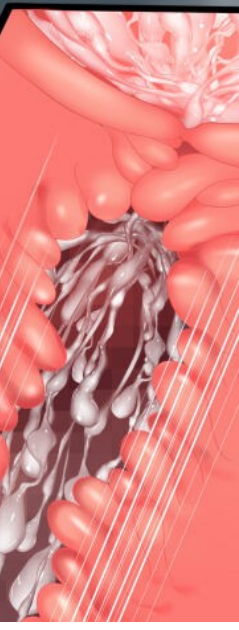
ぽろ...

ぽろ...

ぽろ...

ぽろ...

ぽろ...



「んっ♡違ラッ♡」

「ちよっと休憩したいのよおっ♡」

「ダメに決まっつてんだろ！」

「日本式ブラックチンポ労働に

休みがあるワケねえだろうが！」

「んおっ♡
い、イミちがなんにですけぞっしっしっ!!!
あっ♡」

んっ♡
んっ♡

んっ♡

んっ♡
んっ♡

んっ♡

んっ♡
んっ♡
んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡



「いいから大人しく

ロリオナホ使わせろツツツッ！」

バチロロロロロロロロロロ

ヒクヒク
ヒクヒク
ヒクヒク

ヒクヒク
ヒクヒク

ヒクヒク
ヒクヒク

ヒクヒク
ヒクヒク

ヒクヒク
ヒクヒク

ヒクヒク
ヒクヒク

ヒクヒク
ヒクヒク

ヒクヒク
ヒクヒク

「おおおおお」

ヒクヒク

「あーッッ♥

ギョウギョウマンマンノ締め付けやがッマンマンマンマン♥♥

パンパンパンパンパン♥♥♥♥



「おっおっおっおっ♥♥♥♥」

「イケッッ♥アクメッッ♥」

クノコ

クノコ

クノコ



クノコ

クノコ

クノコ

クノコ

クノコ

クノコ

クノコ

クノコ

「イク♡♡♡♡♡」

「イク♡♡♡♡♡イク♡♡♡♡♡イク♡♡♡♡♡イク♡♡♡♡♡イク♡♡♡♡♡イク♡♡♡♡♡イク♡♡♡♡♡イク♡♡♡♡♡イク♡♡♡♡♡イク♡♡♡♡♡」

「イク♡♡♡♡♡イク♡♡♡♡♡イク♡♡♡♡♡イク♡♡♡♡♡」



「ド○キでオナホと一緒に買っておいいたバニー服
アンナお前めっちゃ似合うじゃん♥」

「この恰好フツウに眠ずかしいんだけど♥」

「あゝ♥」

「見るだけで精子がどくどく金玉に溜まってくるぜ」

「♥♥♥」



「おんツツツツ」

ズプウウウツツツツ

ツツツツツツ
ツツツツツツ
ツツツツツツ

ツツツツツ

ツツツツツ

ツツツツ

ツツツツ



「あッ♡あッ♡あッ♡あッ♡あッ♡」

ズンズン

たろん

ビクッ

グッ

ビクッ

グッ

んん♡
んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

んん♡

下から思いつきり突くと
白くてもっちりしたアンナの
デカパイが

ぶるんぶるん♡と揺れる

んん♡

んん♡



「おッッ♥イクッッ♥またイクッッ♥」

「すっかりオス猿チンポにハマってんじゃん♥」

「イクイクイクッッ♥」

アンナのきつきつとらとらおまんこが

おぽもッッ♥おぽもッッ♥と搾精運動してへる

「うあッッ♥すっげッッ♥♥♥」

たろも

ズーッ♥

たろも



イクイクイクッッ♥

イクイクイクッッ♥

イクイク

イクイク



ビュルルルルツツツツ♡♡

「イグツツツツ♡♡」



「そ……そろそろホテルに戻らなきゃ……♡」

「ん？もうそんな時間か。」

「じゃあ最後にもう一発な」



「んなッ……♡」

「アナタ本当に日本人？」

「れっきとした日本男児だぜ？w」

「……信じらんない……♡」

ドキドキ
△4♡

ドキドキ

ムラムラ♡
ムラムラ♡

ムラムラ♡
ムラムラ♡

ムラムラ♡
ムラムラ♡

△4♡

エロい♡

エロい♡

「じゅるッッ♥じゅるるるッッ♥」

アンナのちあらかいペロに

吸い付きながら

パンパンパンッ♥とチンポをハメる

「んんんッッ♥」



エロエロエロエロエロエロ

エロエロエロエロエロ



「どうしてこうなった・・・？」

「パパとママが日本を気に入ってくれたおかげで
日本に残ることができてよかったワ♥
こんなにお腹もおっきくなったことだしね♥」

ドキ
ドキ

ドキ

ムキ

ムキ

ムキ



「ふっふっ♡♡」

ズン♡♡♡♡♡

「おっ♡♡♡♡♡」

ズン♡♡♡

ズン♡♡♡

ズン♡♡♡

ズン♡♡♡

ズン♡♡♡



「んはッ♡」

お迎え棒パンパンパンパン♡

パチタン♡パチタン♡パチタン♡パチタン♡パチタン♡

「なんだよソレッ♡」

初めて聞く日本語ッ♡

うッ♡ヤバッ♡」

カッ♡

んはッ♡

んはッ♡

んはッ♡

んはッ♡

んはッ♡

んはッ♡

んはッ♡

んはッ♡

んはッ♡



「んっ……♡

日本に来て本当によかったワ♡

……じゃあそろそろド○キに行っ

新しいオモチャ買いに行きましょ♡」

ドキ
ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

「ちよ！待てアンナツツ！
その腹でド○キのアダルトコーナーはマズイって……！」

END